

## 「小学校のあり方について」上市中央校区懇談会

- 1 日 時 令和4年5月29日(日) 14時00分～15時30分
- 2 場 所 上市町文化研修センター 3階大会議室
- 3 参加者 23人(会場参加15人・オンライン参加8人)
- 4 出 席 中川町長、小竹副町長、牧田教育長、小池総務課長(司会)、  
碓井企画課長、平井教育委員会事務局長
- 5 概 要 次のとおり

### (1) 開会挨拶(中川町長)

日本は、少子高齢化が急速に進み、富山県では昨年1年間で人口が約1万人程度減少した。上市町においても、人口が2万人を割った。1年間に出生する子供の数が60～70人程度となり、町内小学校6校で単純平均すると1校あたり10～11人程度の人数である。

近い将来に、ある学校においては1年生から複式学級が生じることが見込まれており、極めて問題のある状況になっている。児童数の少ない学校が必ずしも悪いということではないが、1学年5～6人のクラスで、6年間家族・兄弟の感覚で学校生活を送ることになる。さらには、複式学級の場合は、授業時間の半分は自習となってしまう、例えば、読み書き、計算を習得すべき1年生の授業に、教員が通常半分しか携われないことになる。これは、大きな問題だと認識している。幸い、今年度については、県から講師の派遣を受け、複式学級の解消を図ることができた。

教員を取り巻く環境は、大変厳しい。朝は子供達が来る前に学校に来て、子供達を迎える準備をし、子供達の下校後も、遅くまで働いている。私は、少しでも教員の環境を改善したいと考えており、教育委員会と協議し、改善策を行っている。現在、教員を確保することは、極めて難しい。この際、子供達にとって、良い教育環境とはどのような環境なのか、皆さんと一緒に考えていきたい。

上市中央小学校は、誰が考えてもなくなることはないと思われるであろうが、今の教育環境をこのまま維持していくのか、それとも、小中一貫校の形態をとるのか、あるいは義務教育学校を志すのか、そういう問題も含めて、皆さんと一緒に考えていきたい。

### (2) 説明「小学校の適正規模等への見解他」

牧田教育長、平井教育委員会事務局長より別紙資料及びスライドに基づき説明

### (3) 質疑応答

#### 発言者①

配布資料 8 ページにおいて町内児童数の推移予測が示されているが、町としては、この予測に基づいて、今後の構想をどのように考えているか。小学校のあり方として、どのような方向性がよいのかはわからないが、今後、何かしら考えていくべき課題であるということは理解している。

#### 町長

この問題に対する私個人の意見としては、「(小学校の) 統合やむなし」であるが、町民の皆さんからの意見のなかには、「(小学校がなくなれば) 地域が衰退してしまう」「小規模校のどこが悪い」といった統合に反対する意見も頂戴している。皆さんからの御意見をお聞かせいただき、この問題に対する答えにつなげていきたいと考えている。

上市中央小学校の校舎は、建設から 60 年程度経過し、老朽化しつつある。この間、校舎の耐震化工事や空調の整備、インターネット環境の整備等を実施しており、これらの整備に伴う借入金の残高が、本年 3 月末現在で約 3 億円となっている。仮に、校舎を建て替える場合、この借金のほか、これらの事業に対する国からの補助金についても、一部返還する必要が生じる。小学校の統合を行う際には、どこで建設するか、町内全体で小学校をいくつにするのか、あるいは、義務教育学校や小中一貫校を目指すのかなど、様々な想定が考えられる。皆さんの御意見をお聞きしながら、考えていきたい。

#### 発言者①

町として、構想する案の提示は必要ではないか。

#### 町長

ある方からも、「町長は、なぜ (小学校を) 統合するということをはっきり言わないのか。」という御意見を頂戴したが、これをやってしまっただけは、町民の皆さんからの御意見をお聞きする場がなくなってしまう。

富山市は、学校の統合計画を発表し、各地で住民説明会を行っているが、地元からは統合案に対し、相当の抵抗が生じている。「学校がないところに誰が転居してくるのか」「学校がなくなれば地区が衰退する」といった意見が出ているようである。

町民の皆さんから御意見をお聞きし、この問題について一緒に考えてまいりたい。

#### 発言者②

私は、義務教育学校、小中一貫校の導入については反対である。上市町の場合、これらの導入は小学校を一つにまとめるということにつながるものであり、それは非常に拙速であると思う。時間をかけて、先行他団体

の例を調査した上で、検討していくべきである。

私を知る県内の例では、統廃合を進めた地域において、不登校の子が明らかに増えたという例がある。統廃合の結果、遠方から通学することになった児童に対し、スクールバスを回せば良いと考えられるかもしれないが、スクールバスのような狭い空間に長い時間乗車するのが辛い子供もいる。こうしたことも含め、様々な要因で（不登校が）生じていると聞いている。

本日の資料における児童の推計等を鑑みるに、小学校の統廃合を全否定するわけではないが、何段階かに分けて実施してみるのもよいのではないか。例えば、いきなり町内で小学校1校にするのではなく、最初は3校程度にまとめるという方法もあると思う。地域から小学校がなくなってしまうと、小学生の登校風景が見られなくなってしまう。それは、その地域にとって大きな影響があることだと思う。

町長

総合教育会議の席においても、この小学校の問題について私は「統合やむなし」という私見をお話ししたが、出席された教育委員からは、「小規模校は維持すべき」といった統廃合に否定的な御意見もいただいた。

町では、十数年前に陽南小学校と白萩西部小学校を小規模特認校に指定し、町内のどの校区からでも通学できるようにしたが、この間、両校に小規模特認校としての特色を持たせることができなかった。結果、これらの学校に、校区外から通わせようということにはならなかった。これについては、行政の責任である。

別の御意見として、「統廃合を言う前に、人口増対策を図るべき」という意見も頂戴した。上市町においても、人口増のための施策を展開し、その内容を雑誌等でもPRしているところであるが、これらがすぐに人口増につながるわけではない。子育て支援等人口増対策については、懸命に取り組んでいるのでご理解いただきたい。

発言者③

小学校のあり方について、自分のなかでは結論は出ていないが、教員の児童に対する対応如何で、児童の通学意欲にも影響があると思う。教員が余裕をもって児童に接することができれば、児童も学校で楽しんで過ごすことができると思う。一方、教員が多忙であれば、児童との接触も少なくなり、引いては、いじめや不登校等の問題にもつながる可能性がある。教員が、余裕を持って学校生活を送れるような体制が望ましいと思う。こうした点も考慮して、学校の規模を御検討いただきたい。

町長

私も、教員の負担軽減については、大胆に行うべきだと考えている。この対応策について、教育委員会にもいくつか提案し、必要な予算を措置し

た上で実施している。

このことについて、私から県の教育長に対し、2つお願いを申し上げている。1つは、県教育委員会による指導主事訪問をやめていただきたいということ(教員はこの準備、対応だけでも時間をとられる。)。もう1つは、県教育委員会から市町村の教育委員会に対し、教員の業務改善に係る通知等(具体的にこの仕事を廃止する等)を出してほしいということ。これらがすぐ実現するわけではないが、こうもしないと教員の仕事は減らない。教員にも、自身の生活があるということを考えるべき。これからも、教員の負担軽減に努めていきたい。

教育長

教育委員会による教員の多忙化の解消策の一環として、各学校から教育委員会に提出していただく文書について、昨年度見直しを行い、複数の文書について削減している。また、中学校の部活動については、現在、教員が土曜日、日曜日、あるいは平日の遅い時間まで指導を行っている状況であるが、地域の皆さんの支援を頂き、地域への移行を進めているところである。

今後とも、校長会とも相談の上、できることについては教員の負担の軽減を図っていきたいと考えている。

教育委員会事務局長

児童の発達支援に対する負担軽減措置として、昨年度から教育センターに発達支援に係るアドバイザーを配置しており、また、(従来から)授業の際の教員の補助として、スタディメイト(特別教育支援員)の配置を行っている。

この他、義務教育学校・小中一貫校の制度においては、資料(15ページ)にも記載のとおり、小学校5・6年生での教科担任制の導入が可能である。小学校の教員は、原則、全ての授業を一人で行っているが、これによって、例えば、小学校で新たに教科となった外国語についての専科指導等も実施しやすくなり、教員の負担軽減につながると考えている。

発言者④

人口減少は避けられない状況にあり、児童の数も減少している。陽南小、白萩西部小の児童数の推移からみても、統廃合はやむを得ない状況にあると思う。

町としては、将来的に、義務教育学校又は小中一貫校へ移行していくことを目指しているのか。本日の町の説明では、義務教育学校又は小中一貫校を推しているように感じたのだが。

教育長

統廃合の有無、義務教育学校又は小中一貫校の導入等については、これから皆で一緒に考えていきたい。現段階で結論が出ているという状況で

はない。

町が、義務教育学校又は小中一貫校を推しているように受け取られたのであれば、当方の説明の仕方が適切ではなかったということである。ご容赦いただきたい。

発言者④

私は、複式学級については、メリットはないと思っている。1学級を単独で維持できないのであれば、義務教育学校又は小中一貫校の形態について検討することは賛成である。

町長

町内の小学校を現行の状態で維持するのか、義務教育学校又は小中一貫校を選択するのか、こうしたことも含めて、皆さんと意見交換をしながら考えていこうということである。

例えば、上市中央小学校の校舎が老朽化しており、その建て替えを行う場合においても、どういうスタイルの学校にするのか、その答えが出ないと学校の建設規模を決めることができない。皆さんとの意見交換を尊重しながら、集約していきたいと考えている。

発言者④

上市中央小学校の校舎については、児童の通学にあたり、老朽化も気になっている。同校の校舎の建て替えについて、始期あるいは終期の目安はあるのか。例えば、10年以内に建て替えるとか。

町長

資料17ページでお示ししている検討のスケジュールは最短のものであり、校舎の建設に至るまでには、学校のスタイル、過去の借入金及び補助金の返還計画等を決めなければならない。建設そのものだけでも、着手してから2年はかかるであろう。直近5年以内の完成は、極めて難しいと考える。

発言者④

学校建設においては資金面の問題があると思うが、地域の方、保護者の方から、学校建設に係る寄附金を募ってはどうか。例えば、寄附をいただいた方の名前を校舎に掲示するという方法もあるのではないかと。保護者の視点としては、お金を負担してでも、良い学校をつくってほしいという思いがある。ご検討いただきたい。

町長

学校建設のために、別に町民から寄附金を募るという考えは、私は持ち合わせていない。そうした御意見があるということについては、理解しました。

発言者⑤

(複式学級の場合) 授業時間の半分が自習になるというのは、低学年の

子にとって好ましくないように感じる。そうであれば、時間割の再考も必要ではないか。

小学校が、中学校のように1つになる可能性はあるのか。そうなれば、複式学級になる可能性は低くなるのではないか。

町長

小学校が1つになるのか、2つになるのか、あるいは現行のまま維持していくのか、これについては、皆さんの御意見がどのように集約されていくかによる。そのために、こうした場を設けて、御意見をお伺いしているところである。(後段の質問については)この場での回答は控えたい。

複式学級については、他校区の懇談会においても、絶対に嫌だという御意見を頂いている。町としては、小学校のあり方がどのような方向になるとしても、複式学級を解消するための努力はしていくつもりである。問題は、その成否が教員の確保にかかっているということである。そういう厳しい状況にあることを御理解いただきたい。

#### (4) 閉会挨拶 (中川町長)

本日で、全ての校区の懇談会が終了したが、参加者が非常に少なかったというのが私の印象である。

これまでの懇談会においては、複式学級は絶対に嫌だという御意見や、地域の核である学校がなくなるというのは大変不安であるという御意見をいただいた。これから小学校に入る子供達に対し、どのような教育環境を提供するのかということは、大きな問題であると思う。この教育環境を決めるのは、私達である。懇談会に御参加いただいた皆さんの思いも含めて、決めていくものである。

今後は、小学校のあり方について、現行の学校数を維持していくのか、あるいは義務教育学校、小中一貫校という選択も含めて(町が誘導していくということではなく)、町民の皆さんと改めて意見交換を行う場が必要ではないかと考えている。いつかは、また別の形で、そうした機会をつくっていくことになると思う。また、この後、議会に対し、懇談会の経過を報告する予定であり、議会の皆さんの思いもお聞きしたいと考えている。

どうか、我が子、我が孫のためという思いで、町のこれからの教育環境について、一緒に考えていただくようお願い申し上げます。

以上